

よこはま支部だより

Vol.43

発行日

平成19年8月10日

(社) 神奈川県建築士会 横浜支部事務局 担当：大平

〒231-0011 横浜市中区太田町2-22 神奈川県建設会館

TEL 045-201-1284

FAX 045-201-0784

日時：平成19年06月23日(土) 14時30～

会場：横浜情報文化センター 7階

出席者数：43名 委任状：209名 合計：252名

司会：山成 芳直



1 支部長挨拶 南 利幸 (PM 02:30)

2 議長選出 議長 南 利幸

3 議事 (PM 02:38)

①平成18年度 活動報告

総務委員会(報告者、山成芳直) 厚生委員会(報告者、大北晋一郎)

広報委員会(報告者、大貫浩) 技術情報委員会(報告者、田中克樹)

②平成18年度 収支決算報告・監査報告

収支決算報告(報告者、今井淳子)

監査報告(報告者、酒井康裕)

③平成19年度 活動計画案

総務委員会(提案者、山成芳直) 技術情報委員会(提案者、田中克樹)

厚生委員会(提案者 大北晋一郎) 広報委員会(提案者、大貫浩)

④平成19年度 予算案 提案者(宮田信夫)

4 上記1～3まで一括質疑応答 (PM 02:58)

質問 ①支部合同委員会は本年も行うか

②支部委員会と本会の委員会が連携できないか

③本会上層部に委員会活動の道筋をたててもらいたい

④支部と本会の関係について

⑤関東ブロック大会と支部の関係について

5 活動計画案及び予算案の採択 (PM 03:16)

議案書通り 全員の拍手にて採択

6 議長解任



平成19年度通常総会報告 横浜支部長 南 利幸	1・2
関東甲信越ブロック会 神奈川大会 お礼	3
村野藤吾 三養荘 技術・情報委員会	4・5
第12回ハイキング紀行 箱根 小涌谷から湯坂路へ 大西正之	6・7
絵画同好会 6月9日スケッチ会	8
ワイン同好会	9
テニス同好会だより 山中湖の合宿ほか	10・11
お知らせ	
横浜支部夏の親睦会 第50回全国大会北海道大会	12
編集後記 広報委員会	



住まい手に喜びを提供し、ヨコハマに幸せに
します (株) 星

- | | | |
|-----------------|---|------------------------|
| 7 来賓紹介 | 建築士会会長
横浜市まちづくり調整局指導部長
横浜市建築事務所協会会長 | 藤田 武
斉藤 龍男
名取 邦享 |
| 8 来賓挨拶 | 建築士会会長 | 藤田 武 |
| 9 閉会 (PM 03:20) | | |



第2部 (PM 03:25~PM 05:00) 司会 長井 邦夫

講演会：(財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター長

横浜国立大学名誉教授 宮脇 昭 氏

「21世紀の家づくり・町づくり」

～生きた緑の構築材料を使いきれ～



第3部 (PM 05:10~PM 07:00) 司会 落合 博

懇親会 「ランチャアベニュー」 (情報文化センター1F)



関ブロ神奈川大会盛況のもと開催!!

平成 19 年度 関東甲信越ブロック会青年建築士協議会神奈川大会（お礼）

社団法人日本建築士会連合会関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会の神奈川大会は、平成 19 年 6 月 16・17 日の二日間で開催いたしました。10 都県の会員、学生、一般の方々 650 名に参加していただき、盛況のもと無事に終了することができました。

横浜支部並びに士会会員の皆様には、お忙しい中、多数の参加を頂き、誠にありがとうございました。第 1 分科会から第 4 分科会の企画は、いかがでしたでしょうか。特に、第 2 分科会の設計競技は、当大会の最も重要な企画であり、参加者や担当をした実行委員の熱意も感じとって頂けたと思います。

会員の皆様にも、自己研鑽、情報交換の場になったのではないのでしょうか。これからも社会に発信できる建築士会の活動をして参ります。今後とも、ご協力をよろしくお願い致します。



参加者人数	
(社)茨城県建築士会	47
(社)栃木県建築士会	44
(社)群馬建築士会	55
(社)埼玉建築士会	19
(社)千葉県建築士会	65
(社)東京建築士会	16
(社)山梨県建築士会	24
(社)長野県建築士会	59
(社)新潟県建築士会	42
(社)神奈川県建築士会	132

神奈川県参加者内訳	
一般・学生	21
小田原	3
川崎	10
県庁	4
相模原	15
湘南	8
中	9
横須賀	15
横浜	41
県央	6

村野藤吾 三養荘

技術・情報ツアー（2007年6月27日）

応募が殺到し、受付開始から3日で定員を超えた「三養荘ツアー」。残念にも参加できなかった人のために、今回は、見学で明らかにされた内容を中心にまとめてみた。（文中、一部敬称略）



三養荘は、村野藤吾の最後の作品といわれている。しかし、本人が関与したのは基本設計の終了までで、その後は残った所員に託されたのが事実だ。

建築主はコクド（西武）の堤義明。高い美的見識を備えた人で、一連のプリンスホテルの時期は、高層なら丹下、曲線的な敷地なら村野、という一貫した考えを持っていたという。

村野藤吾が1984年に亡くなった後、「先生ならこうだったよね。」と自らのデザインを出しはじめる堤。それに対し、「いいえ、こうです。」と直伝の村野流で切り返す所員。こうしたやり取りで、三養荘は増築が続けられ、最後の棟が完成したのは9年後の1993年であった。

今回の講師は、西塚保遠氏。村野事務所最後まで三養荘に携わった方だ。「村野先生のお人柄と工事費以外のことでしたら……。」というのが西塚氏の条件だった。元所員、しかも一人だけのコメントは偏った村野像を与えかねない。その配慮にはとても共感できた。ところが工事費のほうは、竹中工務店とコクドで適当に調整していたので、全く知らないからという。世にいう村野単価である。

クラスター（ぶどうの房）状に客室が点在する村野の提案に、堤はとても驚いたそう。道路からの門が5～6箇所もあるのは、お忍び客同士の鉢合わせを避けるため。内外の動線が、複雑に交差しているながらも、個々の庭付き客室は完全にプライバシーを確保した、緻密な平面構成が特徴だ。

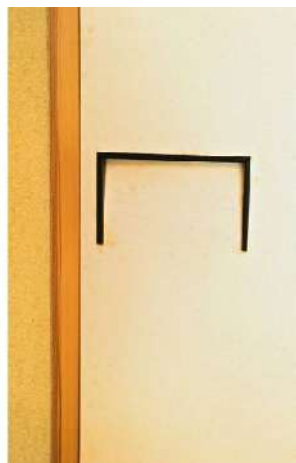
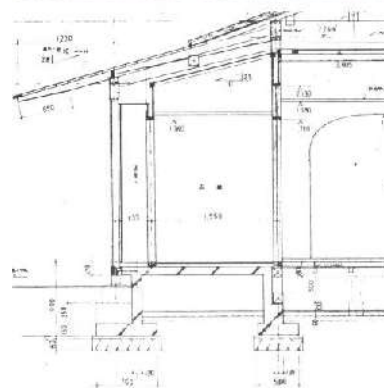
右の写真は、初音（はつね）という客室。宿泊料が最も高く、今上天皇が宿泊された部屋だ。ここは基礎が面白い。

通常の木造では、土台や梁に柱を「ほぞ差し」する。柱頭と柱脚がピン接合だから横力に対してはグラグラだ。一般的には、これに耐震壁をバランスよく配置することで、架構全体を安定させる。

しかし、初音のように前面が全開口の数奇屋では、地震力を負担する耐震壁が意匠的に設けられない場合がある。そこで採用されたのが、柱脚を剛にする接合だ。

矩計図の右側の基礎がそれにあたる。柱をコンクリートに立てた後、布基礎の腹の上下2箇所アンカーし、柱脚を剛にしている。耐震壁ほど効かないが、少々地震力には抵抗する。

村野藤吾は、構造的な合理性に、無頓着だったらしい。三養荘では、部分的に鉄骨も使われている。鉄骨造だと悟られないようにデザインすることも、当時の所員には求められたようだ。



見学中に、驚きの声が多かったのは建具だ。

「細い！……」。

掃き出しの木製ガラス戸で、框の見付けは30mm前後。障子の框などは組子と同幅で、10mmにも満たない。ガラスで持たせていると錯覚しかねない細さに、設計者のこだわりと職人の心意気が大いに感じられた。

右側の写真は太鼓襖の切り引手。中指一本でスーッと開く。その軽さも、日常の感覚から大きくかけ離れたもので、たいそう驚いたのを覚えている。

村野事務所は、空間にかかわる全てをデザインすることを前提に仕事を受ける。中でも、照明や家具の設計は、すべての設計行為に通じる教科書的な位置づけで、新人がこれにあたるが多かったようだ。カタログなど見ていたら即座にしかられ、まず材料に対する自らの感覚を、線を引ながら養うことが求められたという。

見学中は、三養荘側の希望も聞かれた。照明の和紙の張替えが大変なのでアクリルに換えたいという。しかし西塚氏は、明るさの醸し出す雰囲気の違いや、宿泊客のデザインに対する要求の高さを引き合いに、とつとつと三養荘側を説得された。短いやりとりだったが、深く印象に残る出来事だった。

事前の打合せで、西塚氏と一杯やっていたときだ。紙に曲線を描いたとき、それを横から見る仕草をする。曲線の生き死にを見極める方法だと教えてくれた。

今回の担当は、役得だった。とても楽しく学べた。

(技術・情報委員 田川尚吾)



第12回ハイキング紀行

箱根 小涌谷から千条の滝・浅間山・鷹巣山を経て

湯坂路へ

大西 正行



今回は上り2時間、下りが3時間といったゆりをもった時間配分で下りが長いコースを紹介します。

箱根登山鉄道小涌谷駅を起点として箱根湯本までの行程となる。

小涌谷駅改札を出て左に行くとなんとなく道路を横切る事になる。ここに最初の案内標識がある。少し急な車道を10分ほど上って行くと左手に曲がる分かれ道となる。ここからは道が少しずつ細くなり舗装も途中で切れるが5分もすると千

条（ちすじ）の滝に着く。ベンチもある。まずは最初の一服である。その流れは千条のごとく柔らかく清らかな滝となっている。夏なら心地よい涼しさを満喫するだろう。

ここから左手の橋を渡る。案内板には浅間山まで30分とある。5分も歩いたらどうか。浅間山と鷹巣山へ向かう分かれ道となる。鷹巣山まで40分とある。ここは少し急な道となっているので倍ぐらいの時間がかかってもよいつもりでゆっくりと歩を進める。途中、桧であろうか、一つの斜面丸ごと伐採されている所を右手に見る。またその遠くには駒ヶ岳を見て行く。



間もなく林道にぶつかり、左手は浅間山となる所を右手に鷹巣山へ向かう。あと15分とあるが、前方にはかなりの急斜面が待っているのが見える。15分と所要時間の少ない案内板に勇気付けられて汗をかきながらの奮闘である。

確かに我慢しての話だが、ゆっくりと上っていくと割りとすぐに頂上へ着いた気がしてくる。

見晴らしは西の方向へ開けて駒ヶ岳・神山・冠が岳を遠見して手前に芦の湯温泉か湯の花温泉の辺りであろう噴煙の上がっている所を木々の間から垣間見る。

ここで食事となる。城跡と言われるだけあって、山城の雰囲気は地形から推察できる。

食事のあとは今来た道に戻るが、先程の林道とぶつかった地点を案内標識の通りに突き進むとなんとなく浅間山となる。ここも城跡であったかもしれないと案内看板がでている。

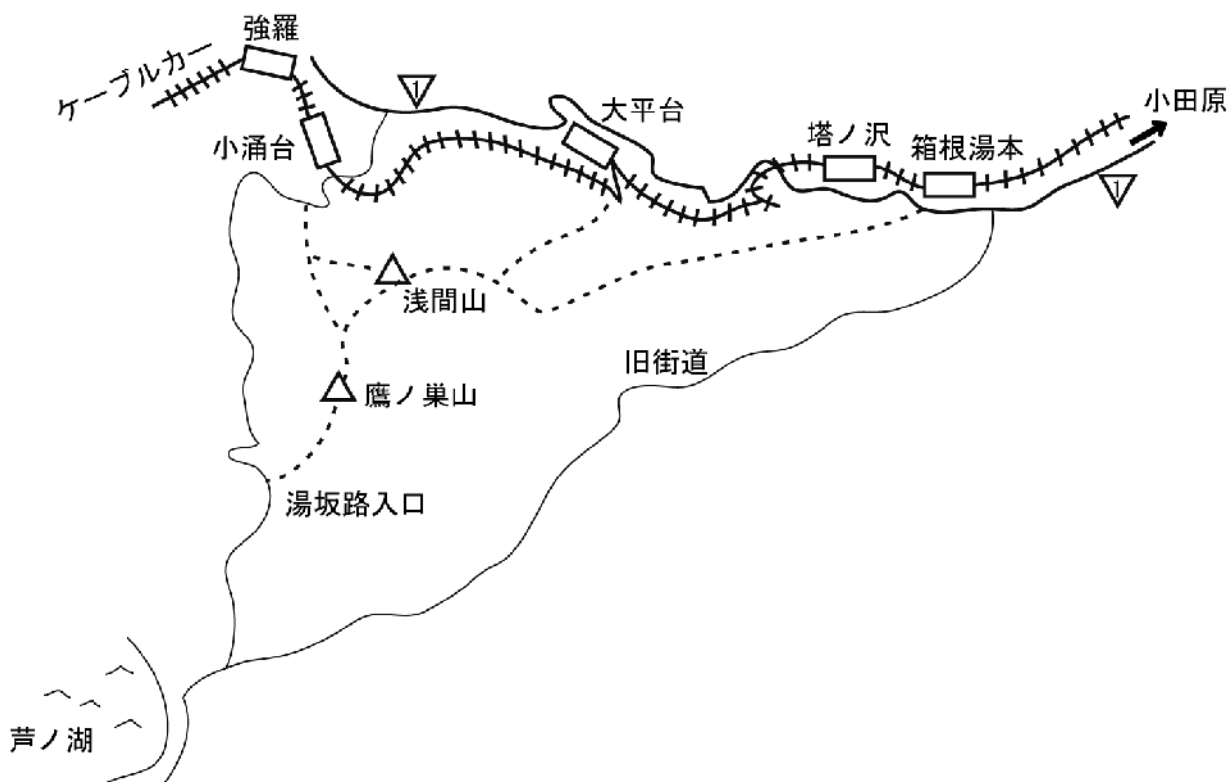


ここからは湯本まで湯坂城址を経て130分ぐらいみると良い。延々と緩い中の広い尾根道の下りが続く。途中春なら桜そして足元にボケの赤い花を楽しみながらの、いつもの生活からの緊張感が溶けて無くなっていくような気分となる道になっている。

また1時間もいかないうちに大平台に抜ける分岐もある。その先は一部鎌倉古道の名残であろうか石畳ともなっている。



最後に国道の旭橋の上流側に出る。あとは箱根湯本駅まで10分である。



絵画同好会だより

6月9日 菊地紀代子

約3年間程休んでいた、スケッチ会の参加です。「海を見て元気になろう。」そんな気持ちもありました。久しぶりに会う同好会のメンバーと9時に京急横浜駅を出発しました。最初に今年4月開館の「横須賀美術館」の建物（山本理顕氏）と所蔵絵画の見学です。別館に谷内六郎館があり、どこか懐かしい週間新潮の表紙絵の展示がありました。館内のレストランでランチタイムを過ごし、観音崎灯台に向かいました。高い所からの景色は素晴らしく、対岸の房総半島、下を走るボートなど話題が多く、灯台の天辺でしばらく過した後、目的のスケッチを始めました。お題は「灯台」と誰かが言いましたが、それぞれ好きな場所でのスケッチです。私は下から灯台を描き始めスケッチブックが短い（灯台の頭が入らない）事に気づき、のんびり海と雲を描く事にしました。

平成 19 年 4 月 12 日（木）、山手十番館で恒例のワイン同好会が開催されました。今回は川崎支部と合同で総勢 30 名の出席者でした。桜も散り始め、最後の花見となるこの夜、ワイン同好会会長の長井さんご自慢の豊富な知識でワインを集められました。スペイン産のスパークリングワイン「セグラ・ビューダス・ブリュット・レゼルバ」で全員で乾杯！楽しいひと時が始まりました。スパークリングワイン独特のさわやかな風味が酔いを誘い次のチリ産の白ワイン、「ロス・ヴァスコス・シャルドライバーネ 06」、同じく白ワインでカリフォルニア産、「カレラ・セントラル・コースト・シャルドネ 04」と飲み干し、顔もほんのり赤くなり赤ワインに突入します。カリフォルニア産、「カレラ・セントラル・コースト・ピノワール 05」を飲み出す頃には皆さん陽気になり声が次第に大きくなってきます。私のテーブルは尊敬する横浜支部副支部長の長井先輩、本会副会長（後に会長就任）の藤田武さん、本会青年委員会で只今売出中の新進気鋭の若手筆頭株菊嶋さん、そして支部厚生委員会副委員長の大北さんです。どちらかというと施工関係者が多く建築士会の現状と今後について大いに議論しました。建築士会はそれぞれ個人の資格で設計、施工、行政、教育、その他の分野で活躍される方々で構成されています。又、設計・施工の分野は更にそれぞれ専門性で分化された職種の方々がいます。私のような地元の施工会社、いわゆる地元ゼネコンの大部分は現在、建築士の資格より建築工事施工管理技士の資格取得を奨励しています。建設業法上は建築士と建築工事施工管理技士の資格は同格ですし、日頃施工に従事していると、やはり施工管理技士の方が取りやすいのが本音です。しかしながらこのままで行くと将来、地元ゼネコンには建築士の資格を持つ社員が居なくなる可能性も否定できません。次の赤ワイン「フランス産ボルドーCH・オー・バタイエ 83」を飲み出す頃、控えめな私は酔った勢いで、思い切って長井大先輩に「建設業法で建築一式工事の許可に代表者は建築士の取得者に限ると改正すれば、その問題は将来的に解消し、又建設業者の数も整理される」と意見具申したところ「それはいい考えだ」と同意を得ました。私は常々思っていることがあります。設計施工の工事は別にして、施工会社は設計事務所の監理を受け工事を進めます。一つ一つの工程で監理者の立場、設計者の立場を認識し更に施工者の知識、認識、経験で細かい納まりを検討しつつ工事を進めることはユーザーにとってより良いものを提供することに繋がると思います。そのためには施工に携わる者はある程度の設計の知識は必要だと思います。しかしながら施工会社の社長としては現行建設業法上での各社の格付け等を考慮すると本来の施工会社が目指すべき方向と違った資格取得を奨励しているかもしれません。なかなか難しい問題です。そんな話題から更に盛り上がり、某氏におかれては最後の赤ワイン、オーストラリア産「BIN555 シラーズ 04」をグッと飲み干し、酔った勢いで「建築士会も一級建築士部会、二級建築士部会を作りそれぞれの専門性を高めたらどうか」との考えを披露されました。何やら建築士会内に昔のインドのカースト制度か江戸時代の士農工商如き身分制度が横行するようで、毎年一級建築士試験を受験し、いつまで経っても合格しない頭の悪い輩にとっては耳の痛い話しをしていました。各々自分勝手な議論で盛り上がり、大変楽しいひと時を過ごし、ストレスを発散しました。

ワイン同好会は長井副支部長を中心に定期的に懇親会を開催し、ワインの勉強、そして会員同士の懇親を深めております。ご興味のある方は是非御参加下さい。

テニス同好会だより



定例会報告

- ・平成19年1月13日(土)
雨天のためミーティング&新年会

参加13名

あいにく新年早々の同好会は雨天のため、ミーティングを兼ねた新年会を行いました。今年の目標等について意見交換会を行いました。



新杉田の焼き鳥と日本酒が美味しい「まいど」

- ・平成19年2月10日(土)
練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加7名
冬なのに半袖でもできる位暖冬でした。
参加者が少ないのが「サムイ」いや「サミシイ」



- ・平成19年3月10日(土)
練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加5名
シングルの練習が出来ました。シングルスっておもしろいかも・・・。
2次会には同好会長も駆けつけてくれました



- ・平成19年4月14日(土)
練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加12名
春の音が聞こえてきたせいでしょうか？2桁の参加者です。久しぶりの参加者を歓迎！何年もテニス練習していなかったの？と思わせるプレーが見られました。



- ・平成19年6月9日(土)
練習PM 5:00~7:00

金沢産業振興センターA・Bコート参加10名
今回は初参加者が加わりました。様子を見てからということでしたが、すぐに皆さんと溶け込みこれからも参加してもらえそうな雰囲気でした。



同好会員募集中！

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎！お気軽に連絡下さい。
詳しくはホームページをご覧ください

連絡先：玉野 045-894-8452 FAX893-6614





山中湖の合宿

5月12日(土)・13日(日) 場所:山中湖「三盛荘」 参加者14名(日帰り1名)

恒例になりました山中湖の合宿。天候に恵まれました。1日目は午前中快晴で、朝は雲ひとつ掛かっている富士山を見ることができました。テニス大会直前のため、練習にも熱が入ります。会長から大会への戦略方法を伝授、大会に出場するA・Bチームに別れ本番さながらの練習試合をしました。夕食後のミーティングでは次週のテニス大会に向けての作戦会議をして充実した合宿を無事終えることが出来ました。



道中の見晴らし台にて



午前中、雲ひとつない富士山をバックに



12日全員集合



昼食のラーメン屋さんにて



夕食タイム



夕食後のミーティング



13日集合写真

テニス大会

5月19日(土)磯子区岡村コートにてテニス大会が行われました。

参加チームはA・Bの2チーム。昨年の惨敗経験から、今年こそは何か何でもポイントを獲得するという合宿での作戦を思い出し、やる気満々のメンバー達。

Bチームは午前、Aチームは午後3時～と遅い時間でしたが無事終了。結果は、両チーム共初戦は負けてしまいました。コンソレではAチームの女性ダブルスは勝ちましたが総合で敗戦。終了後の反省会では、手ごたえを感じたものの勝負の世界は結果が大事！今後の対策について、月一度のペア練習では不足ではないかということで、同好会とは別に練習をしたらどうかという案がでていました。参加することに意義があるだけでなく、勝つための参加をそろそろ考える時期が来たようです。



Aチーム



Bチーム



試合前の挨拶



反省会

同好会の予告

8月25日(土) PM5:00～7:00 金沢産業振興センターにて定例会を行います。

初参加の方はご連絡下さい。(当日海の公園にて花火大会が開催されますので混雑が予想されます)

●厚生委員会からお知らせ 夏の親睦会 8月31日(金)午後6時から (同封のお知らせあり)

●第50回建築士会全国大会北海道大会開催のご案内

平成19年9月8日(土)

帯広市民文化ホール

テーマ 北の開拓地で誓う ～建築士の使命～

記念講演会(14:00～15:30)

「地域に根ざしたもの・まち・くらしづくり」

- ・ まちづくり交流プラザ 「十勝の生活と地域文化」
- ・ 屋台 (旧モーガン邸を守る会が出店)
- ・ パネル展 (神奈川大会分科会パネル展示)

地域貢献を担う青年建築士の活動報告(子ども環境部会が発表予定)

セッションA 北の開拓地で語ろう ～ひと・まち・くらし～ 10:00～12:30

セッションB 地域密着型の建築士による地域づくり、人づくり 13:00～15:30

セッションC 建築士のマインド情報公開…社会の信頼回復に向けて 10:00～12:30

セッションD 建築士法改正による専攻建築士制度の活用 13:10～15:30

※ 平成19年度神奈川の連合会会長表彰者

- ・ 長井 邦夫氏
- ・ 芝 京子氏
- ・ 花方 威之氏
- ・ 中川 元宣氏

伝統的技能者表彰者

- ・ 小松原 廣純氏

※ 全国大会に参加される方は、大会式典だけでなく、是非、屋台村・セッションにも参加をお願い致します。(神奈川の会員の活動を応援しましょう) 女性委員会・青年委員会



●平成19年全国女性建築士連絡協議会に参加して



(ねぶた)

青森市にて、7月13日、14日の2日間、上記の会が開催されました。テーマ「地域と共生する住環境づくり」～自然とこだまする～に全国から女性建築士が約280名集いました。神奈川からは、8名が参加しました。1日目は、全国女性部会長(委員会)会議、開会式に続き、基調講演「世界遺産白神山地とまたぎ」というテーマで、またぎをされている方の話を聞き、パネルディスカッション「北のまちとくらし」では、豪雪都市のくらしの厳しさを知りました。そこに住み続けている人は、都であり、たくましく、雪のくらしの楽しみを提案し、活性化を目指しているのです。自然とうまく付き合って暮していくことの重要性を感じました。2日目は、8分科会に分かれ、テーマに沿った活動報告や討議がなされました。B分科会「建築士制度と士会活動」では、コメンテーターとして、当士会の金子成司さんが、神奈川の女性・青年委員会の活動報告をしました。毎年、男性会員の参加もあり、熱のこもった会になっています。また、記者会見をし、大会アピールを社会へ発信しています。(雨森)



□ 横浜支部賛助会の皆様へ パナーの広告掲載を無料にて行っております

パナーは、下記のような要領でおねがいいたします

- ① パナーは、縦35mm。横105mm。解像度を300pixelでお願いします
企業スローガンや、住所や電話番号を記載されても構いません
原稿はカラー(支部のホームページに記録)。実際に会員配布されるものは、白黒です
- ② 広報委員会(大貫)まで、メールにて送信。メールアドレス ohnuki@dream.big.or.jp
- ③ ご不明な点は、広報委員会(大貫)までお問い合わせください。

横浜支部広報委員会

第43号編集者

(あいうえお順)

雨森隆子 大西正行

大北晋一郎 大貫 浩

小俣 隆 田川尚吾

玉野直美 橋本朝子

丸山幸一

広告パナー(見本)

(社)神奈川県建築士会 横浜支部